

# 会 議 録

平成 2 2 年 4 月 1 5 日

審議会等名	平成 2 1 年度 第 2 回三条市文化財保護審議会		
公開の別	全部公開		
開催日時	平成 2 2 年 3 月 1 9 日 ( 木 ) 午前 1 0 時 0 0 分 ~ 正午		
開催場所	三条市中央公民館 音楽視聴覚室	傍聴者	1 人
出席者	審議会委員 荒木会長、五十嵐委員、岡村委員、金子委員、関委員、高橋委員 松井委員、松永委員、六原委員、若槻委員		
	事 務 局 金子生涯学習課長、近藤課長補佐、田村係長、勝山主任		
欠席者	渡辺副会長、長谷川委員		
議題	( 1 ) 最明寺・本都寺仏像調査報告について		
	( 2 ) 本成寺多宝塔建造物調査報告について		
	( 3 ) 大崎浄水場建造物調査報告について		
	( 4 ) 芝地鶏 ( 日本鶏 ) について		
	平成 2 1 年度芝地鶏 ( 日本鶏 ) 等級審査について		
	三条市指定天然記念物芝地鶏 ( 日本鶏 ) 指定文化財台帳の登録抹消について		
	( 5 ) 『三条市文化遺産リスト』追加物件 ( 案 ) について		
	( 6 ) その他		
	1 荒木会長 開会のあいさつ		
	2 議題		
	( 1 ) 最明寺・本都寺仏像調査報告について		
事務局	( 資料により説明 )		
荒木会長	本都寺の阿弥陀如来立像の来迎印は、上品下生でいいのか。阿弥陀様の来迎印は、この形が一番多いのではないかと思う。 仏像の報告について、質問などあるか。		
関委員	本都寺の仏像については、先に見せていただいており古い時代のものと思っていた。調査時に見学に行きたかったが時間がとれず失礼した。仏像の内部に胎内墨書的なものは見られなかったか。		
事務局	仏像内部まで調査できなかったが、台座から下ろして、担当の熊田先生に詳細に見ていただいたが、銘などは確認されなかった。		
関委員	仏像が納められている厨子についても、大変古いように見えたが、江戸時代のものか。		
荒木会長	厨子も下ろして調査したのか。		
事務局	厨子は下ろせず、また、熊田先生は仏像の専門で、仏画などの専門でいられないとのことであった。写真をお知り合いの専門の方にお見せして、聞いていただけるとのことであった。		
松井委員	2 0 年ほど前に新潟県教育委員会が主体となって下田村を中心に、『嵐北』の調査		

	があり、調査員として考古学の専門として参加した。その際に、ご本尊の両脇に木の灯籠があり、それに年号が書いてあって、だいぶ古かったと記憶している。
事務局	厨子の時代だが、報告書の中に14世紀後半と推定されるとある。
荒木会長	金子委員は、これらの仏像に対して何かあるか。
金子委員	最明寺の調査だけ参加したが、初めて間近で拝見して大変感激した。
荒木会長	二度の火災で焼けずに残ったとは、幸運だった。手などに傷みが見られる部分もあるが、修復は必要か。
事務局	すぐに修復の必要はないようである。熊田先生がおっしゃられるには、後世の補修と思われる削られた面が見られたことが残念であったとのことだ。
荒木会長	後世に手を加えられたと。
事務局	後世に削られ、見た目は良くなったが、制作時の作風が損なわれてしまった部分が認められる。 最明寺千手観音菩薩坐像、本都寺阿弥陀如来立像、いずれも鎌倉時代の仏像であることが確認され、大きな調査成果である。
荒木会長	海蔵院に市指定文化財の仏像があるが、それらの仏像と比べて、市指定文化財としての価値はどうか。
事務局	熊田先生は、市指定文化財としての価値は十分があるとっておられた。
荒木会長	関委員はこれらの仏像が市指定文化財にふさわしいと考えるか。
関委員	市指定文化財として十分であり、さらに県指定なども今後議論されるだけの価値はあるのではないかと。昨年は加茂市で二件の仏像が県指定文化財となった。
事務局	いずれの仏像も所有者の合意が得られた中で、市指定文化財にということを考えている。
荒木会長	本都寺の阿弥陀様は、鼻と唇の位置などほかにもいろいろ特徴的なところがみられ、味がある。 ほかにも質問はないか。 (質疑、意見なし)
	(2) 本成寺多宝塔建造物調査報告について
事務局	(資料により説明)
荒木会長	高野山にあるような建築の様式でいう多宝塔とは違い、固有名詞としての本成寺の多宝塔であると説明に加えたらどうか。今回の調査により珍しい建物だとわかった。 また、報告書には、赤門と書いてあるが、県指定文化財としての名称は、三門(山門)となっているので修正していただきたい。 多宝塔は、隣接してある鐘楼と並んで非常にいい対照となっている。多宝塔の檼木が扇檼木であり、鐘楼は平行檼木になっている。当日調査を見学し、天井裏まで調査され、大変だと思ったが、精密な図面ができてよかったと思う。 五十嵐委員は建築も詳しいがどうか。
五十嵐委員	これは過去に修理をした様子はあるか。また、過去にどのような材料を使ったか記録は残っているか。

事務局	小屋裏を調査したが、大きな改修は見られなかった。また非常に保存状態が良い建物とのことであった。
岡村委員	上層はどのようになっているのか。
事務局	小屋裏になっており特に造作等はされていない。
荒木会長	小さい建物の割に軒組みが非常に絢爛とした感じがする。現在の三条市指定文化財と比べて価値はどうか。
事務局	報告書にあるように、県内においても数少ない形式の建物で、江戸時代明和年間期の1700年代中頃の歴史的な建物である点からも評価されていた。
荒木会長	これも文化財に指定しても恥ずかしくないということか。
事務局	そのように考えている。
関委員	県指定の本成寺三門は天明年間のものか。
事務局	天明6年、1786年でほぼ同時代ということですか。
荒木会長	ほかに質問はないか。
	(質疑、意見なし)
	(3) 大崎浄水場建造物調査報告について
事務局	(資料により説明)
荒木会長	三条は五十嵐川が流れていたために、その水をそのまま飲んでいた時代が、江戸期からずっと明治、大正と続き、昭和の初めに浄水場ができ、川の水を飲まずにすむようになった。五十嵐委員は水道局に勤務されて水道事業に携わってこられたがどうか。
五十嵐委員	三条では上水道ができる前は、今の市街地の小路入口に、大きな樽を設置し、五十嵐川から水を汲んできて、その樽にいれて簡易的な水道としていた。これは、江戸時代中期頃から行われていたと記録にもある。
荒木会長	いわゆる水汲小路である。この大崎浄水場の建物は、子供の頃から見ていて非常にモダンだということが驚きであったが、近代の著名な建築家の作品であると知り、納得した。この浄水場施設についてどのように考えているか。
事務局	これについては、今後どうするかは、市内部で検討していきたい。今回は、詳細調査についての成果を報告させていただいた。
荒木会長	よく浄水場を水源地と混同している人がいるが、水源地はいわゆる取水場で別であり、そこから管を引いて浄水場に水が行っている。今回このようなすばらしい資料をまとめられ、また詳細な図面にも入っており、この報告は非常に貴重な資料である。
荒木会長	ほかに質問はないか。
	(質疑、意見なし)
	(4) 芝地鶏(日本鶏)について
	平成21年度芝地鶏(日本鶏)等級審査について
事務局	芝地鶏については、岡村委員の方から説明いただきたい。
岡村委員	(資料により説明)
荒木会長	芝地鶏の見方を説明願いたい。

岡村委員	芝地鶏は野生の野鶏にきわめて近い体形をしているのが一番いい。細身で足は脛の長さがだいたい普通10cm くらいの、それから尾の角度で大体30～40°くらいで、色合いは枯れた芝のようなオレンジ色のタイプと、全身白色の白いタイプがあり、目つきが鋭くて野性味にあふれているのが特徴である。また、動作が機敏で、飛び上がって走り回る力が非常に強いのが特性になっている。
荒木会長	等級審査でAランクの鶏は、芝地鶏という種の中でも選ばれた鶏か。
岡村委員	そうである。比較的芝地鶏として審査基準に定められた標準に近いものである。
荒木会長	ほかに質問はないか。
	(質疑、意見なし)
	三条市指定天然記念物芝地鶏(日本鶏)指定文化財台帳の登録抹消について
荒木会長	岡村委員よりお願いしたい。
岡村委員	(資料より説明)
荒木会長	生き物というのは非常に短いサイクルで交代していくということである。
荒木会長	ほかに質問はないか。
	(質疑、意見なし)
	(5)『三条市文化遺産リスト』追加物件(案)について
荒木会長	文化遺産リストの追加物件候補については、推薦された各委員から説明していただく。五十嵐委員からまずお願いしたい。
五十嵐委員	(資料により説明)
荒木会長	ちょっとお聞きするが、水倉の「クラ」という字はこの倉を使うのか。
五十嵐委員	地域によっては水蔵と書く場合もある。太平洋側では、土盛りを土盛りと言わずに水盛りと言ったり、地域によって呼び方が違う。
荒木会長	金子委員、下田地区で水倉はあるか。
金子委員	下田の方ではないようだ。
荒木会長	六原委員の栄地区はどうか。
六原委員	栄地区も土蔵とか倉とか少しは目にはつくが、うちの辺りも水害の常習地みたいなもので、田んぼより1m50cmか2mくらい屋敷だけが土盛りしてある。そういう屋敷にはもちろん土蔵があった。今は車で走っただけでは目に付かなくなっている。
荒木会長	いわゆる水倉という呼び方はあるか。
六原委員	ない。
荒木会長	倉はあるがそういう言い方はしないということか。
五十嵐委員	小松先生と調査で回ったことがあるが、水倉とはあまり言わなかった。土盛りして高くして作ったと言われていた。
六原委員	屋敷地があれだけ高いということは、相当何代も家を作り直さなければ、あれだけの高さの土盛りはできない。
金子委員	下田地区は水害があまりなかったのでそういう備えをしなかったと思う。
五十嵐委員	近年、水倉の堀が高く感じられる。周りの水田が堆積により高くなったからと思われる。塚野目にある川は、昔は舟が通ったが、今は人も通れないような状況になって

	いる。
荒木会長	水倉は、五十嵐委員から紹介していただいた大島、国道403号沿線地域だけに残るものか。
五十嵐委員	大崎の一部などにもある。
荒木会長	五十嵐委員から大谷地紙製作用具について説明願いたい。
五十嵐委員	(資料により説明)
荒木会長	金子委員、何かあるか。
金子委員	地元で大谷地和紙保存会を作り、その復元に取り組み、紙を漉いている。始めるにあたって、道具類を収集するのが一番大変だった。初めは、下田郷資料館の展示品を借用しようという話も出たが、地元で一揃いの道具が見つかり、それを使って始まった。今後市で保存していただければありがたい。
荒木会長	昭和35年頃まで紙漉きをしておられたというが、製作工程の記録はとられているか。
金子委員	実際に漉く技術を持っていた方が一人いたり、その他にいろいろ家で漉いていたのを見たりした人もいる。製作工程の記録はとった方がいいのではないかと考えている。
五十嵐委員	作業場の大きさとか、道具があった場所とかを復元図にすることができるか。
金子委員	皆同じような配置というわけではなかったと思う。今私たちがやっているから、ぜひ見に来ていただきたい。
五十嵐委員	工程の記録をお願いしたい。 三条市の文化遺産として高度な技術を要する大変貴重な生産具である。できたら一括三条市指定文化財として保存していただきたい。そしてその道具を使う工程順と場所を記録して保存していきたい。
荒木会長	金子委員から嵐溪荘、遠人村舎、下田地区にある建造物について説明いただきたい。
金子委員	(資料により説明)
荒木会長	嵐溪荘は大正時代の旅館の建築として、遠人村舎は大漢和辞典の編纂所での建物として、下田地区の建造物ということで説明いただいた。 次に古文書、建造物については事務局から説明いただきたい。
事務局	(資料により説明)
荒木会長	古文書の『雪月花』の複製本を回した。法事の時に配ったものとだと聞いている。野島出版から『雪月花』が出ているが、内容が違うので、別の本かもしれない。これは価値があると思う。 三条駅舎は大正15年以前に建てられたとあったが、おそらくは明治40年の国有鉄道化のときに建てられたと聞いている。非常にいい建物で、改修された箇所はあるが、そのまま残っている。油庫も明治45年建設と書いてあるが、もっと以前のものではないか。昔の客車列車は電灯の設備がなかったので、夕方になると客車の中に屋根を伝ってランプを挿入して歩くという作業があった。そのためのランプを保管する倉庫がこれで、県内に二つだけ残っている。

荒木会長	ほかに質問はないか。
	( 質疑、意見なし )
荒木会長	これで閉会とする。

以上